

# 日本結核病学会北陸支部学会

## —— 第90回総会演説抄録 ——

平成29年5月27・28日 於 新潟医療人育成センター（新潟市）

（第79回日本呼吸器学会  
第64回日本呼吸器内視鏡学会 と合同開催  
第49回日本サルコイドーシス学会）

集会長 菊地 利明（新潟大学大学院医歯学総合研究科呼吸器・感染症内科学分野）

### —— 一般演題 ——

#### 1. 空洞切除後の化学療法が著効した肺 *M. abscessus* 症の1例

°桑原克弘・松山菜穂・清水 崇・馬場順子・松本尚也・森山寛史・宮尾浩美・大平徹郎（NHO 新潟中央病呼吸器センター内）渡辺健寛（同呼吸器センター外）

症例は47歳男性。空洞を伴う両側の粒状陰影があり *M. abscessus* 症と診断された。空洞病変を部分切除し CAM, AMK 等の併用治療で排菌や画像が著明に改善した。肺 *M. abscessus* 症はきわめて難治性とされているが本症例は治療が奏効しやすい亜種の *M. massiliense* 症であった可能性が高い。予後を予測し、侵襲の大きな外科的切除の適応を決めるためにも菌種鑑別法の開発が望まれる。

#### 2. インドネシア人企業実習生を中心に発生した結核集団感染の1例

°大場泰良（NHO 富山病呼吸器外）

県内某企業でインドネシア人実習生を中心に発生した結核集団感染発症事例を2014年に経験したので、同時期の一般結核接触者健診集団と比較検討して報告する。①人数：企業日本人社員群21，外国人実習生群41（インドネシア32，ベトナム9），一般健診群48（日本人47，中国人1）。②平均年齢：48.1歳，30.5歳，34.7歳。③T-SPOT陽性率：57%，70%（インドネシア72%，ベトナム66%），20%で，企業健診両群は一般に比して約3倍に増加。④T-SPOT陽性者の結核発症率：33%，27%（インドネシア34%，ベトナム0%），30%。⑤各群全体の結核発症率（③×④）：18%，18%（インドネシア24%，ベトナム0%），6%。⑥無投薬経過観察率：各群とも約30%。⑦治療完了率：日本人社員および一般100%に対し，外国人実習生（インドネシア人）は70%と低く，在留期限切れによる帰国が原因。⑧T-SPOT陽性の外国人実習生29人中9名（31%）で非結核性抗酸菌 marker陽性。経過中インドネシア人実習生間でT-SPOT陽性者数

の二峰性 peak を認め，治療介入後に消退した。〔考案〕国籍別の住居作業環境が結核発症率に差を生み，初回曝露から二次感染を誘発した可能性あり。④が各群とも30%前後と一定であるため，③が全体の発症率に対する影響因子の一つと推測され，在留期限切れによる中途帰国を念頭に入れた治療継続への対応が必要と考えられた。

#### 3. 当院の結核診療の現状

°北 俊之・新屋智之・市川由加里・寺田七朗（NHO 金沢医療センター呼吸器内）笠原寿郎（金沢大病呼吸器内）

〔目的〕結核診療に関して検討した。〔方法〕2014年1月～2016年12月に結核と診断した47例（男29例，女18例，平均年齢73.7歳）の主訴，基礎疾患，抗酸菌検査，治療について検討した。〔結果〕無症状は12例（胸部異常陰影9例，IGRA陽性3例）。悪性腫瘍6例，糖尿病4例。ステロイド投与中は4例。抗酸菌塗抹陽性21例。治療はA法14例，B法25例。〔結語〕結核病床を有さない当院では，塗抹陽性結核は速やかに結核専門病院へ転院した。

#### 4. 診断に難渋した結核性髄膜炎の1例

°松岡寛樹・高戸葉月・渡辺和良（地域医療機能推進機構金沢病呼吸器内）笠原寿郎（金沢大附属病呼吸器内）

80代女性。発熱・意識障害で受診。胸部CTでは粟粒性結核が疑われたがT-SPOT陰性，各種培養でも結核菌陰性であった。抗生剤治療後も高熱持続し，結核を否定できず，抗結核薬による治療も開始された。意識障害も悪化し，頭部CTでは水頭症が出現，髄液検査では髄膜炎の所見，ADAが増加していたが，PCRでは結核菌陰性であった。治療後も状態悪化し死亡。死後に髄液結核培養陽性となり，DDTで結核菌が検出され確定診断された症例を報告する。

